

白山国立公園 鳩ヶ湯宿舎

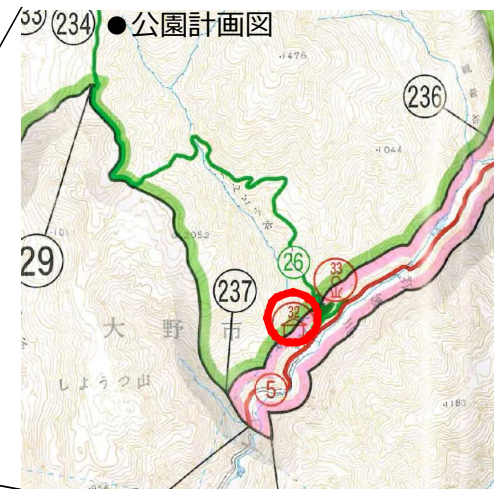
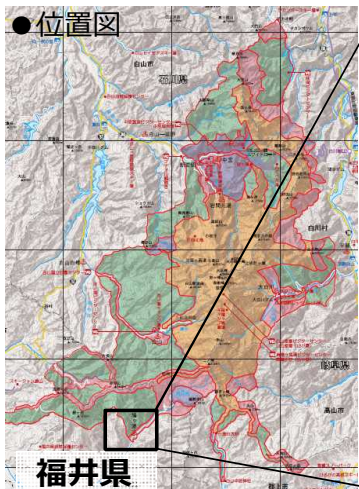
決定

区域面積：0.3ha

最大宿泊者数：20人/日

執行者（予定）：民間

第2種特別地域（民有地）



本事業地は標高1,640mの赤兎山の南麓にあり、打波川の峡谷沿いに位置する。今回宿舎事業として把握する施設は、1903年に創設され、主に温泉浴や溪流釣り、赤兎山への登山及び刈込池への散策の利用拠点として機能してきた。



平成25年に一旦廃業となり、さらに平成26年度に雪害によって宿泊棟部分が倒壊したが、現所有者が当該施設を買い取り、経営再開の準備を進めていた。温泉施設部分は倒壊を免れたため平成27年度より利用を再開しており、再開時には200人/日の利用があった。今回、当該施設の宿泊棟部分が再建されたことから、それに合わせて事業決定し公園事業施設として把握するものである。

既存施設の把握（宿泊棟、駐車場） 執行者：民間

- 白山国立公園鳩ヶ湯宿舎として、公園を快適に利用するために必要な宿泊施設、駐車場等が整備されている。



駐車場



宿泊施設

周辺の施設



鳩ヶ湯赤兎山線道路（歩道）登山口

赤兎山へ続く鳩ヶ湯赤兎山線道路（歩道）があり、歩道利用者などが、当該宿泊施設を利用している。



鳩ヶ湯周辺の植生

自然環境への影響

事業地から赤兎山の山頂にかけて福井県最大のブナ林が広がっており、イヌワシやオオワシ、ツキノワグマ等の生息地となっているなど、豊かな生態系が維持されている。事業地周辺には特に希少な植物は確認されていないが、赤兎山の頂上付近には湿原があり、ニッコウキスゲ等の高山植物の生育地となっている。

今回の事業決定は、既存の宿泊施設を公園事業施設として把握するもので、大規模な開発等は伴わないため自然環境に与える影響は最小限である。

大山隠岐国立公園 久見崎園地

決定

区域面積：0.5 ha

執行予定者：隠岐の島町

第2種特別地域（公有地（隠岐の島町）、民有地）

●位置図

島根県
隠岐郡



●公園計画図



対岸の蝋燭島



ダルマギク

- 大山隠岐国立公園を代表する景観である蝋燭島の北東方向の対岸に位置している。
- 標高0～10mの海岸で、アルカリ流紋岩の白い岩肌と流理構造が見られる。
- 指定植物であるオキノアブラギクや、ダルマギクなどが生育している。
- 海蝕景観の探勝や、近隣の野営場でのキャンプ、海釣りなどの利用がある。

久見崎園地決定区域図



事業規模

区域面積：0.5ha

(既存の施設の範囲を決定区域とする)



①園路



←園路沿いに見られる高山性のシロウマアサツキ



②海蝕景観（アルカリ流紋岩）

- 海岸には、隠岐固有の植物や、高山性、南方系、大陸性の植物が混生しており、隠岐独自の植物群落が形成されている。
 - 平成25年の世界ジオパークの認定という背景を踏まえると、海蝕景観や独自の植物群落を見ることができる本園地の果たす役割は大きくなっている。
 - 世界ジオパークの認定等により、当該園地周辺の地形、地質、植生等が注目され、島外からの観光客による利用が増加傾向にあり、適切な維持管理が求められている。
- ※隠岐の島町観光客入り込み数 H24年：約113,000人→H27年：133,000人

既存施設の把握（園路、階段、転落防止柵）

執行者：隠岐の島町

- 海蝕景観や海岸の植物を安全かつ快適に探勝するための園路、階段、転落防止柵が整備されている。（隠岐の島町）



園路



階段



転落防止柵

自然環境への影響

- 既存施設は、地形を活かした園路等で必要最小限の整備にとどめられている。
- 老朽化した施設等の再整備を行う場合も、大規模な地形改変の必要はなく、風致景観上支障のない形状及び色彩とすることができる。
- 以上のことから、周囲の自然環境へ与える影響は最小限であると考えられる。

やんばる国立公園 ネクマチチ岳塩屋富士 線道路（歩道）

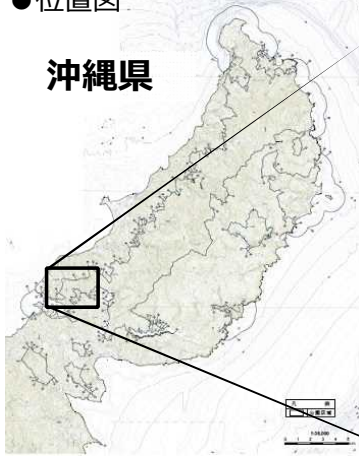
決定

路線距離：3.8 km

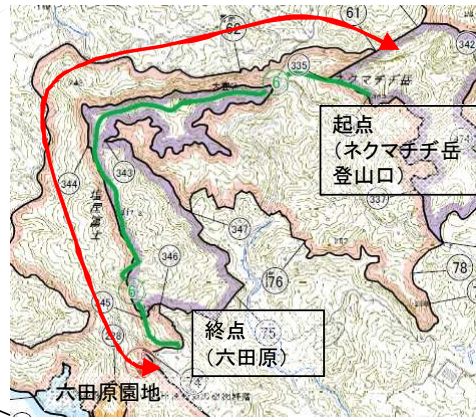
執行予定者：大宜味村、環境省

第1種特別地域、第2種特別地域（公有地（大宜味村）、民有地）

●位置図



●公園計画図



ネクマチチ岳登山口



ネクマチチ岳頂上からの展望

- 沖縄島北部の大宜味村のほぼ中央に位置するネクマチチ岳から塩屋富士までを縦走する登山道。
- 石灰岩地特有の希少植生及び景観や、展望地からは沖縄八景のひとつである塩屋湾や海岸景観の眺望を得ることができる。

ネクマチチ岳塩屋富士線道路（歩道） 路線図



事業規模：路線距離3.8 km



石灰岩及び歩道



猪垣

- ネクマチチ岳から塩屋富士までを縦走する登山道であり、大宜味村により階段やベンチ等休憩施設が整備されている。
- 沖縄県では数少ない登山道であり、エコツアーのフィールドとしてガイドや個人観光客に利用されている。
- 山頂部からの眺望や石灰岩地特有の希少な植物等を観察することができる。
- 歩道脇には、猪垣（かつて山に開墾した畑の作物をリュウキュウイノシシから守るために築いたもの。）や炭窯の遺構が残されている。

既存施設の把握（歩道、休憩施設等）

執行者：大宜味村

- 安全かつ快適に登山するために必要な歩道、休憩施設等が整備されている。



歩道



広場及び道標

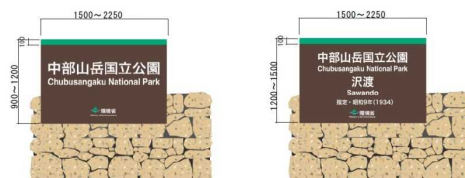


休憩施設(ベンチ)

入口標識の整備

執行予定者：環境省

- モニュメント型標識を設置することにより国立公園の入口らしさを演出するとともに、区域の明示・周知、地名等の情報提供を行う。



入口標識の例(自然公園等施設技術指針より)

**西表石垣国立公園
住吉園地**

決定

区域面積：3.1 ha

執行者（予定）：竹富町

第2種特別地域（町有地（竹富町））

● 位置図

● 公園計画図



本事業地は、ウナリ崎公園として整備されており、地元住民の利用が多い。最近、竹富町に整備されたところであり、まだ、知名度が低いため観光利用者数は少ないが、今後増えることが想定される。